

平成 28 年度 「四日市羽津医療センター地域協議会」

【日 時】平成 28 年 11 月 2 日（水） 18:00～19:00

【場 所】四日市羽津医療センター多目的ホール

【議 題】1. 現状報告
2. 質疑応答
3. 意見交換
4. 連絡事項

【出席者】淵田則次（四日市医師会会長）、河合信哉（四日市市保健所長）、高橋敏行（四日市北消防署署長）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会）
小川泰雪（四日市市自治会連合会会長）、味香祥平（羽津地区自治会会長）
以下 当院スタッフ 住田安弘（院長）、梅枝覚（副院長）、渥美伸一郎（副院長）
木村光政（副院長）、橋本裕次（事務部長）、田中敬子（看護部長）、
松下容子（訪問看護ステーション看護師長）、位田由起子（地域連携室看護師長）
岩谷米幸（総務企画課長）、位田浩（健康管理センター管理課長）、
中川佳代（老健管理係長）、澤田晴美（地域連携係長）、圓城健二（経営企画係長）
池田孝（総務係長）

【議事録概要】（H28 年度第 3 回四日市羽津医療センター地域医療支援委員会同時開催）

1. 現状報告

○病院現状報告

- ・ H28 年度入院、外来患者数動向、新入院数
- ・ 紹介率、逆紹介率、科別紹介患者数
- ・ 病診検査の推移、検査別病診検査数
- ・ 救急患者の推移、救急車受入状況
- ・ 地域包括ケア病棟の導入、ハイケアユニット入院医療管理料の導入
- ・ 包括ケア病棟稼働率
- ・ 結核患者の受入状況
- ・ 今後の病棟の方向性、今年度の重点取り組み

○健康管理センター現状報告

- ・ 施設健診、巡回健診の件数
- ・ 今年度の実施状況
- ・ 脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査「Lox-index」
- ・ 新規オプション検査「軽度認知障害（MC I）検査」

○老人保健施設現状報告

- ・ 入所者数、通所者数
- ・ 在宅復帰率、ベッド回転率
- ・ 入所収益、短期収益、通所収益、居宅収益、訪問給食収益

○訪問看護現状報告

- ・ H28 年度医療保険、介護保険利用者数
- ・ H28 年度延べ訪問件数
- ・ 月別新規依頼者数と看取り数

- ・新規依頼者の紹介先
- ・医療保険、介護保険利用者数割合
- ・要介護度割合、利用者の主治医割合

2. 質疑応答

【ハイケアユニットについて】

外部委員：ハイケアユニットに入室する方は、救急で来られる方が多いのですか？

内部委員：救急と術後の方が中心（平均在院日数 1.5 日そこから一般病室へ）

【脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査について】

外部委員：「Lox-index」の検査金額は？

内部委員：12000 円（特殊な検査のため、当院では測れない）毎日 1~3 件の依頼がある（4 月から実施）

【包括ケア病棟について】

外部委員：包括ケア病棟はものすごく混んでいてお願いしても入れてもらえないという噂があるが？

内部委員：噂だけです。今日現在 45 床の内 40 床入っている。短期の方の退院を見込んで、次の方の予約をさせていただいている。在宅に帰る率が何%と決まっておき、ある程度在宅に戻って頂ける方でないといけないため、そういう噂となったのではないか。選定委員会もあり、そういったことで噂になったのか。

【老健施設について】

外部委員：老健の来年 4 月からの地域包括ケアシステムが稼働したときの動きはどのようによんでいるのか？地域のほうでも要支援者の受け入れについて要望がでていするため、対応しようとしている。

内部委員：認知症カフェを開設した（月 1 回）

認知症の方、関心のある方を遊び感覚で老人保健施設を訪れていただくような趣旨でこの前 2 回目を開催し盛況であった。

外部委員：要支援者 1・2 の方も老健で対応してもらえるのか？

内部委員：老健を利用していただけだと思います。

外部委員：入所はどうですか？

内部委員：入所は介護度が無いとできない。

外部委員：老健の看取りは誰が看取るのか？

内部委員：当直医とのチームワーク、看取り率は高いチームワークによる（施設看取り）

【入院患者数について】

外部委員：病床数 235 床に対して現在の入院患者数 155 名は低いのでは、又今後の考えは？

内部委員：入院患者数には波があります。連休や年末等の休日の関係、感染症患者の隔離の必要性、性別、年齢、入院期間の短縮等により低くなる。新入院患者数は多い（約 380 名）。入院患者の回転率はよい。今後については 80% を目標に頑張っていく。

【訪問看護について】

外部委員：訪問看護職員数 5 名で月 600 件は職員が疲弊してくるのでは？

内部委員：常勤 5 名パート 2 名いるが忙しい。土日祝日も交代で勤務しているが、必ず振替休日も取っている。夕方遅くの訪問は、時差出勤で対応している。

30分の訪問も結構あるが、医療依存度が高い90分もある。
移動時間を短縮するために、同じ方向で調整をしている

3. 意見交換

外部委員：地域連携の委員会で災害の訓練をしたという話を聞かしていただいたことがある。今回医師会の方も急性期、慢性期の災害のマニュアルを作らせていただいたが、災害になると1病院だけですべてのことを賄うことが難しいので、3病院で共同して、あるいは医師会と共同して行動をとっていかねばいけないというところがある。

【災害時の対応の仕方について】

内部委員：医師会と一緒に計画を練っている。医師会発の災害の対応マニュアルを作ってもらいましたが、一応3病院でも時々会を設けています。今月の終わりに開催を予定している。前は国発の災害の大規模搬送訓練を行った。その時の訓練は、建物の被害状況のチェック、当院では初めてのトリアージの訓練を行った。搬送訓練においては、3病院の間で、重症患者は当院から県立総合あるいは市立四日市病院へ送って、中症の方を逆に県立総合、市立から受け入れるというすみわけで実施した。

外部委員：共通のカルテは作ってあるのですか？

内部委員：作りました。運用方法については、今後調整が必要（市立の独自のカルテ・共通カルテ・医師会中心の応急診療所のカルテがあるため）

【災害時の地下水の供給について（自治会との協定あり）】

外部委員：病院として、住民が利用するときマニュアル化されて対応されるのですか？

内部委員：四日市市が提供した水のリュックサックを持って病院に来ていただければ、震度7までの地震であれば井戸水はでる。各自で水を汲んで持って帰ってもらえれば、病院はいつも供給できる体制でいる。

外部委員：住民はどのような形で水を汲まさせてもらえればいいのか？

内部委員：施設の担当者が対応させていただきます。

【地域包括ケアシステムについて】

外部委員：今後高齢化社会、地域で老人をみていかねばいけない。医師会と3病院とどのような形で連携をとっていくのか？（地域連携室がキー）

内部委員：1番大きな役割をはたすのはかかりつけ医です。かかりつけ医や民生委員からの連絡をうけて病診連携室が動き対応していく。（受入内容に限界がある）いろんな方をすべてどのような形で受け入れていくのか、みなさんの意見を伺いながらどういった患者さんが増えたり減ったりするのかをみながら対応していきたい。先程、老健では要支援の方の入所はできないという問題もございましたが、その方々に対して、どのようなサポートができるのかさらに検討を重ねていきたい。医師会の先生方のかかりつけ医制度が拡大していけばいく程、ますます住民の方々の介護に対する安心も深まっていく。かかりつけ医を持つことを住民の方に進めていただきたい。

外部委員：在宅で診ている患者さんが急に発熱した時に、バックベッドとしてある程度治療が出来る病院が必要となってくるので、今後頼りがいのあるバックとして協力をお願いしたい。そういう意味では地域包括ケア病棟はいいと思う。

内部委員：患者急変時は一般病棟に入っただけから包括ケアに移っていただく形になる。レスパイト入院というのもあり、いつも在宅で介護している患者さんの介護する側が、どこか旅行に行くとか、用事がある場合に預かるというのもやっているの、またぜひ活用してください。

【地域連携室より】

内部委員：現状として、地域の先生から直接電話依頼があり（熱がでた、転んで動けなくなった等）診察の結果、急性期の入院が必要であればそちらで入院していただく。転んだ場合は骨折がなければ特に整形外科での入院が必要でない、そのまま地域包括ケア病棟の方へ入院できるような段取りもさせていただいている。また地域の先生方からご相談いただけたらと思っておりますのでよろしくをお願いします。

【救急車について】

外部委員：救急車はありますか？

内部委員：一応あります

外部委員：救急車を活用する場として、例えば他院の転送、患者さんの退院等で使われることはありますか？

内部委員：重症患者さんの場合はちょっと古くて使いづらいので、病院間の搬送、患者さんを家に送るときに使っています。

外部委員：年間どのくらい使っていますか？

内部委員：数えるくらいです。

外部委員：患者さんが転院や退院の時に選ばれる多い手段はどういうものですか？

内部委員：民間の救急車を地域連携室から手配することがあります。当院の救急車の場合、運転手は事務員で、看護師も付き添うことは出来ませんが、急な場合は対応できないことがあるため。民間の救急車は料金がかかるが、家族の希望があれば手配します。

外部委員：消防署の救急車を頼まれることはいかがですか？

内部委員：救急車の転院搬送のケースはあります。緊急性のある場合はそちらの方が確実で、数として多いと思います。

外部委員：消防の現実としては、病院間の搬送は救急車が対応しております。患者さんの通院は介護タクシー（7社くらいある）がかなり増えてきました。介護タクシーに乗る人に対しては、3日間応急手当のことを学んでもらっているの、ある程度の急変時は判断できるような乗務員で搬送しているので市民の人は安心していらっしゃると思います。

外部委員：四日市市における病院間での救急車の搬送率は、他の市町に比べると少ないと聞いたことがあるが？

外部委員：救急車の転院搬送については、全国的には全体の1割くらいというデータが出ているが四日市市はそれよりは少ない。四日市全体の占める割合は多いという印象はある。四日市14000件に対して、かなりの件数1000件くらいはある。2～3ヶ月前に病院施設で救急車の正しい利用のお願いをさせて頂いた。民間の救急車の利用を促してもらっていてその宣伝効果がでている。

4. 連絡事項

【次回開催日程について】

平成 29 年 4 月～5 月で開催を調整し、事務局より個別で案内させていただきます。